

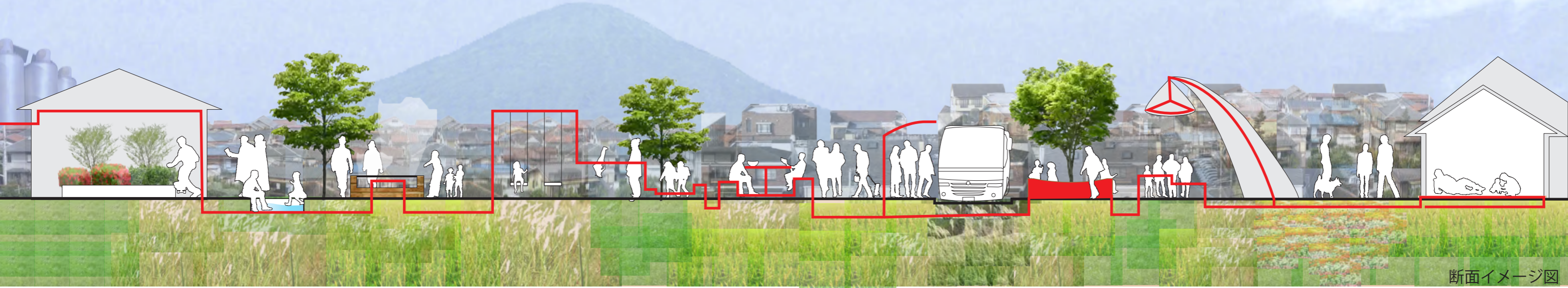
まちのこたっ

居住空間は、室内や家の中だけではなく、普段わたしたちがまちの中で生活している外部空間や公共空間も、同じように暮らしている空間として居住空間と言えるのではないのでしょうか。このような外部の居住空間で、二酸化炭素削減を行うシステムが「まち」単位で行います。

具体的には、現在世界的に取り組まれてる新エネルギー事業を二酸化炭素削減の提案に用いています。

しかしここでは、地域全体で削減に貢献するだけでなく、地域住民の日常の中に人間関係を暖めるきっかけをちりばめることで low-carbon、warm share space として提案していきます。それは、あたたかなベンチで買い物帰りのお母さんたちが井戸端会議をはじめたり、突然降り出した雨をスチームシャワーで服をみんなで乾かしたり。

大規模なスケールからヒューマンスケールに焦点を合わせ、住んでいる人たちに暖かな潤いを与える外部空間を提案します。



断面イメージ図



本提案では多目的石炭ガス製造技術といい、化石燃料をガス化することで燃焼し、エネルギー化する際の二酸化炭素排出量を通常の火力発電よりも30%近く削減することができます。さらに排出される灰や熱などはコージェネレーションとして別の資源や再燃料化されることで非常にクリーンに作り出すシステムになっています。この時に生まれる熱や蒸気を送るパイプを公共空間の暖まるスペースに利用することで地域全体で日常の中にwarm spaceをつなげていきます。

